埼玉県特集

埼玉県内5大学 トップインタビュー

芝浦工業大学

村上 雅人 学長

東京電機大学

川井 悟 理工学部長

埼玉工業大学

内山 俊一 学長

ものつくり大学

赤松 明 学長

埼 玉 大 学

山口 宏樹 学長

先端産業国際ラボが本格始動

―「先端産業国際ラボラトリー」を設置しました。

「産学官金の連携研究・開発により製品化・事業化などを目指している。インキュベーションスペースに大型の試験機器が入り、企業からも人材が集まってようやく体制が整った。現在、メディカルとヘルスケアの二つのイノベーション研究ユニットを設けている」

―具体的な製品化への取り組みは。

「メディカル研究ユニットは県のプロジェクトと直接関わっていて成果を上げつつある。またヘルスケア研究ユニットでは健康管理や生活の質を向上させるために、生体情報の計測や生活支援ロボットなどについての研究・開発を行っている」

―具体的な製品化への取り組みは。

「ヘルスケアでは高視認性低疲労型のLED照明システムの研究がある。視覚情報に対する脳の反応を調べ、視認性や疲労度を解析してLEDはこうあるべきだと問うシステムだ。医療・自動車産業への応用を計画している。今年は、超高齢社会に安心をもたらすイノベーションの循環など、先端ラボの機能を強化し着実に形にする」

―また統合キャリアセンターSUを昨年、設置しました。

「これは学生の入口から出口までを総合的にサポートする部署。キャリア形成支援では、県内企業がかかえる業務運営上の課題を長期インターンシップを通じて解決するという展開を行った。大学院の学生の場合、企業の研究テーマに埼玉大の先生と一緒に取り組んだ。今年はさらに充実する」

来春から総合機械学科に一新

―製造学科を改称しました。

「『製造学科』を改称し来春から『総合機械学科』として学生をとる。製造学科から幅広く電気や機械を理解できる発想力のあるIoT（モノのインターネット）などを理解できる魅力のある学生を育てる狙いでカリキュラムも変更した」

―今年度の重点課題はいかがですか。

「ものづくり大は工業高校、普通科の生徒や先生方、父母に理解してもらえるよう広報活動を効果的にやることが重要だ。私たちはもちろん研究もするが、それよりも大学教員の教育能力を高めるための実践的方法FD研修に力を入れている。先生方の授業をほかの先生が授業参観、まず良いところだけを見て、それを皆で共有しようとやり出した」

―結果はいかがでしたか。

「開始から1年間過ぎ建設的な批判はあったが、こうしたらより良くなるのではないかと良いところなどを指摘、学生に対する授業展開の仕方を良くしていこうと取り組んでいる。従来の大学教育は教科書に書いてあることを覚えさせるやり方だったが、もっと分かりやすく教えていきたいと思う」

―顧客満足度を上げることですね。

「つまり私たちにとって大事なことは学生の満足度をいかに上げるか。そして学生が満足することは何かを明確にすること。学生は教えられる立場だからと居丈高では、もうだめだと感じている。学生に対し何が要求されているのかを分析しないといけない」

産学連携の推進体制を整備

―モノづくり研究センターの活用はいかがですか。

「センターを通じ産学連携が進んできている。民間企業、自治体との共同研究などの申し入れがあり、いくつかの企業と産学連携が進んでいる。外国企業との連携も進んでいる。新しい技術、価値を作る。民間では難しい大学に求められているテーマがある。大学はそれを社会に還元する責務がある」

―具体的に進んでいる研究はありますか。

「いくつか社会と連携した取り組みを行っている。今回、新たに大学発のベンチャーを立ち上げる。学園を挙げベンチャーに取り組むことは他大学にはないこと。大学独自の技術を発信する」

―情報システム学科に新たな専攻を設けました。

「4月から電気電子情報専攻を設けた。当学は環境にやさしい自然エネルギー開発の埼玉工業大学がキャッチフレーズ。それには電気分野が必要。社会が求めている分野、世の中のニーズにあったものを研究し還元する」

―学生をどう育てていきますか。

「大学のプロジェクトに参加してもらい、自主的に興味を持ったモノ、コトをどんどんやってもらう。それを通じ社会に貢献している、一翼を担えることを実感してもらいたい。外部とつながりコミュニケーション能力を高める。それには座学以外のコトを学ぶ。インターンシップなど社会の接点を持つだけでなく、新しい価値を作る活動をやっていることを感じてもらう」

学系改編、生命科学系を新設

―理工学部は2018年4月に40周年を迎えます。

「埼玉県中西部の地で40年目を迎えられたのも地域との連携があったからこそ。TDU産学交流会などを通じて、これからも連携を深めていきたい」

―地域社会への貢献も考えていますね。

「グラウンドの人工芝化が完了し、全天候型で稼働できるようになった。サッカー優先だが、400㍍トラックを敷設できるし、ラグビーやソフトボールも可能だ。また、東武東上線高坂駅（東松山市）近くにセミナーハウスの建設を計画している。これらを一体的に運用し、地域にも開放したい」

―来春には学系の改編、新設も控えています。

「まず電子・機械工学系を二つに分け、電子工学系と機械工学系を新設する。専門性を高めるのが狙いで、社会もそうした人材を求めている。もう一つは生命理工学系を改め、生命科学系を新設する。カリキュラムも見直す。名称も高校の生物科目と結びつきやすいよう、あえて工学という文字を外した」

―今まで以上に専門家を育てていこうというわけですね。

「その通りだが、幅広く勉強したいという学生もいるので、そのための『主コース・副コース制』は残している。副コースは他学系からも選択でき、専門の主コースとは別に、さまざまな授業を受けられる」

―3年生から大学院までの4年間を一貫して学ぶ〝オナーズプログラム〟も始めます。

「学系やコースを越え、先端的で専門性の高い教育を提供する。履修証明プログラムでもある。社会に出るにあたり、より実践的な力を身につけてもらいたい」

―大宮キャンパスは半世紀超の歴史があります。多くの学部の1、2年生が学び、システム理工学部があります。

「緑豊かなキャンパスで、90周年を迎える本学で大きな役割を担っている。大宮への進出は東京・芝浦のキャンパスが手狭になったためだ。時の偶然もあったが、地方創生が叫ばれる今日、地域との連携は重要である」

グローバル支援で県市と連携

―システム理工学部ではどんな教育を。

「複雑で幅広い事象に対応すべく、システム工学思考を持つ人材を育成するため1991年に誕生した。例えば、ロケット1基には何万点もの部品が必要で、一つの工学分野だけでは成り立たない。周辺や他領域を含めた幅広い知識と、能動的な学習を通じたコミュニケーション能力を養うようにしている」

―大宮はグローバル化の一大拠点ですね。

「外国人留学生が多く、国際学生寮や国際交流拠点『グローバルラーニングコモンズ』がある。本学は文部科学省の『スーパーグローバル大学創成支援』に採択されている」

―地域では、どのような産学官連携を行っていますか。

「埼玉県やさいたま市などとはグローバル支援をはじめとする連携協定を結び、キャンパスには産学官連携コーディネーターを配置している。ロボットを活用した『人に優しいヒューマン・マシン対話』、『健康支援等スマートタウン構築』など数テーマに取り組んでいる。学生には『大企業も良いが、優れた中小企業にも意欲と能力を生かせる場がある』と語りかけている。産学官連携は進路選択の契機でもあり、より一層力を入れていく」

人間社会学部

情報社会学科
●経営システム専攻
●メディア文化専攻

心理学科
●ビジネス心理専攻
●臨床心理専攻

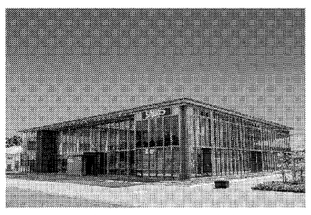
工学部

機械工学科
●機械工学専攻
●ロボティクス専攻

生命環境化学科
●バイオ・環境科学専攻
●応用化学専攻

自分が変わる物語が始まる

情報システム学科
●IT専攻
●電気電子情報専攻


ものづくり研究センター完成！

ホームページで最新情報をGET!

SAIKO 埼玉工業大学
〒369-0293 埼玉県深谷市普済寺1690
お問い合せ 0120-604-606（入試課）
http://www.sit.ac.jp/

ものつくり大学 Institute of Technologists
―大きな社会的要請を受けて開学した革新的工科系大学―
技能工芸学部 総合機械学科（機械デザインコース、ロボットシステムコース、ヒューマンインタフェースコース、生産システムコース）
建設学科（木造建築コース、都市・建築コース、仕上・インテリアコース、建築デザインコース）

技術と技能を兼ね備えたテクノロジストを育成します
理論や知識に偏重することなく、技術と技能を身につけたエンジニアを育成しています。
講義と実技をバランス良く融合した本学独自のカリキュラムに基づき、実践的な工学教育を展開しています。
今後も産業界からの期待に応え、技術立国を支える有為の人材を育成します。

製造学科から総合機械学科へ
AI、IoT、VR等の最新技術や環境エネルギー問題など、社会の変化に対応して、広い視野でものづくりに必要な技術を教育研究に取り入れるべく、製造学科は2018年4月に総合機械学科へと進化します。

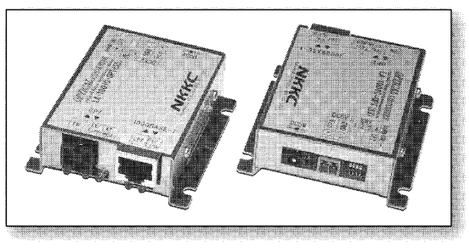
ものつくり大学では就職支援に力を入れています
本学の教育理念やカリキュラムに対する産業界からのご理解と高い評価に感謝いたします。
・清水建設グループ、日立グループ、トヨタ関連企業をはじめ有名企業に多数の学生が就職しているほか、埼玉県内企業との太いパイプで県内優良企業にも多くの学生が就職。
・40日間の長期インターンシップ（企業研修）で社会人基礎力・就職力を強化。
トピックス ～学生の活躍～
・技能五輪全国大会で多くの学生が活躍。2016年には金賞を獲得し、2017年の国際大会に日本代表として出場。

学生フォーミュラで活躍　実習で橋を建設

Information
★高校教員対象進学説明会を開催
6月9日㈮にものつくり大学で高校の先生方を対象にした進学説明会を開催します。ぜひ御参加ください。
詳しくは入試課にお問い合わせ下さい。
★オープンキャンパス開催
6月18日㈰　10：00～

学校法人ものつくり大学
〒361-0038　埼玉県行田市前谷333番地（大学公式ホームページ http://www.iot.ac.jp）
学校法人ものつくり大学会長　宮本洋一　学校法人ものつくり大学理事長　長谷川眞一　学校法人ものつくり大学名誉総長　梅原猛　学校法人ものつくり大学学長　赤松明

デジタル放送から
イーサネットまで
幅広くサポート
落雷被害の軽減が可能



広温度範囲
ギガLAN対応
産業用メデコン

NKKC 七星科学 開発センター 株式会社 七星科学研究所
ICT機器の総合メーカー
〒350-1306 埼玉県狭山市富士見1-15-38　小沢ビル2階　TEL.04-2950-0123 / FAX.04-2950-0122
詳細は NKKC で検索　http://www.nnbs-develop.com　E-mail : kaihat-c@nanabosi.co.jp

射出成形用金型
金型関連部品
池上金型工業株式会社
IKEGAMI MOLD ENGINEERING CO.,LTD.
https://www.ikegami-mold.co.jp

精密金型事業部（大利根事業所／埼玉県加須市）
TEL0480-72-7200　✉o-kanagata@ikegami-mold.co.jp
100～350t ハイサイクル成形用精密金型 設計製作

金型事業部（中曽根事業所／埼玉県久喜市）
TEL0480-22-2222　✉n-kanagata@ikegami-mold.co.jp
350～2,500t 射出成形用金型 設計製作・海外調達

中部テクニカルサポートセンター（名古屋市）
TEL052-824-8127　✉c-kanagata@ikegami-mold.co.jp
成形用金型・部品・リバースエンジニアリングサービス

技術開発グループ（大利根事業所内）
TEL0480-78-0075　✉randd@ikegami-mold.co.jp
微細加工・鏡面研削・エレクトロフォーミング

市場開発グループ（中曽根事業所内）
TEL0480-21-6688　✉mandd@ikegami-mold.co.jp
リバースエンジニアリングサービス
金型部品・ホットランナー関連製品

海外拠点　金型現地調達およびメンテナンス対応
アメリカ：サンディエゴ／デトロイト
メキシコ：グアナファト州イラプアト
中国：江蘇省蘇州市
タイ：チャチュンサオ州Gateway I.E.

I.M.C 埼玉産業人クラブ
会長 増田文治
日刊工業新聞社さいたま総局 TEL 048(872)2281 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-12-4 FAX 048(872)2285
日刊工業新聞社川越支局 TEL 049(229)2225 〒350-0043 川越市新富町2-22 FAX 049(226)7578
部会活動
● NITEC埼玉産学交流会　● TDU産学交流会　● 埼玉ビジネス研究会
http://www.sangyojin.org　E-mail : clubsaitama@sangyojin.org

埼玉産業人クラブ　今後の予定　お問い合わせは事務局（☎048－872－2281）へ。
○7月24日㈪「西部地区例会」（川越プリンスホテル）
○7月26日㈬「第14回親睦ゴルフ大会」（武蔵カントリークラブ 笹井コース）
○8月22日㈫「清水勇人さいたま市長を囲む懇談会」（さいたま市浦和区内で）
○8月29日㈫　分科会「ヨーロッパ野菜の市場創造（仮称）」（浦和コミュニティーセンター）